

# 手術により神経膠腫（グリオーマ）を摘除した患者さん・ご家族の 皆様へ

「神経膠腫における化学療法感受性および予後判定に有用な画像所見と遺伝子発現の後方視的探索」について

## はじめに

鳥取大学医学部附属病院脳神経外科では、グリオーマと診断され、手術によりグリオーマを摘除した患者さんを対象に、カルテ、手術記録、看護記録等（以下、「カルテ等」といいます）の診療情報から得られる情報、検体（腫瘍組織）をもとに研究を実施しています。

この研究は鳥取大学医学部倫理審査委員会の承認を経て、医学部長の承認を受けています。詳細は以下のとおりです。

## 1. 研究概要および利用目的・方法

本研究では、2006年1月1日から2023年12月31日までの期間に、鳥取大学医学部附属病院脳神経外科において、手術によりグリオーマを摘出した患者さんのカルテ等から、主にCTやMRIなどより画像情報を集めさせていただき、「化学療法の薬剤感受性（薬がよく効いたかどうか）や治療効果に有用な画像所見」を調査します。さらに、手術時に得られた腫瘍組織を使用し、「化学療法の薬剤感受性や治療効果に關与する遺伝子異常」についても調査を予定しています。

すべての情報は、鳥取大学医学部附属病院脳神経外科で集計されます。また、検体（腫瘍組織）は、鳥取大学医学部附属病院脳神経外科研究室で遺伝子発現の測定を行います。なお、情報／検体（腫瘍組織）は、研究責任者が責任を持って保管、管理します。

本研究の対象となる患者さんは、他の研究対象者への個人情報保護や本研究の独創性の確保に支障がない範囲で、研究計画書及び研究の方法についての資料を入手又は閲覧することができます。希望される方は、遠慮なく問合せ窓口にお申し出ください。

## 2. 取り扱う情報／検体（測定項目）

患者さんのカルテ等の診療情報から以下の項目を集めさせていただきます。

### 【患者さんの情報】

診断時年齢、性別、体重、確定診断日、Body mass index（体格の指標）、ECOG PS お

よびKPS（全身状態の指標であり、患者さんの日常生活の制限の程度を示すもの）、病理組織診断名、合併症、手術の既往歴、併存疾患名（同時にかかえている病気）、術後補助化学療法及び放射線療法の内容、最終生存確認日、最終転帰、CT・MRI画像

#### 【画像の情報】

##### 1) 術前

CT: 腫瘍の部位、大きさ、個数、石灰化の有無

MRI: 腫瘍の部位、大きさ、個数、造影効果の有無、灌流（腫瘍内部の血流）状態

##### 2) 術後

MRI: 残存病変の部位、大きさ、術前画像との灌流変化

##### 3) 術後補助化学療法中

MRI: 再発の有無、再発病変の部位、大きさ、灌流変化

#### 【手術の情報】

手術の形式（開頭腫瘍摘出術、開頭腫瘍生検術など）、肉眼所見、術中・術後合併症、摘出率

手術時に得られた腫瘍組織を以下の測定目的で使用させていただきます。

腫瘍組織：IDH-1（グリオーマの予後を規定するイソクエン酸酵素）、MGMT（抗がん剤の治療効果に関与するDNA修復酵素）、CD34（腫瘍組織内の栄養血管の壁に存在する糖タンパク質）、COX-2（炎症で惹起される酵素、グリオーマでは腫瘍の浸潤、増殖への関与が疑われている）、VEGF（血管新生を促すタンパク質）、VEGFR（VEGFの受容体）、PTEN（がん抑制遺伝子で欠如していると腫瘍が増殖しやすい）、p53（がん抑制遺伝子で欠如していると腫瘍が増殖しやすい）

### 3. 研究期間

この研究は、鳥取大学医学部長が研究の実施を許可した日から2026年3月31日まで行う予定です。

### 4. 個人情報保護の方法

患者さんの情報／検体（腫瘍組織）は、研究責任者が責任をもって保管、管理します。また、氏名、イニシャル、住所、電話番号、カルテ番号などの直ちに個人を識別できる個人情報は匿名化\*され、本研究では匿名化された情報を使用します。このようにして患者さんの個人情報の管理については十分に注意を払います。

\*匿名化について：本研究にご提供いただく情報については、患者さんの氏名、住所、電話番号、カルテ番号など、患者さん個人を直ちに特定できるような情報をすべて削除し、代わりにこの研究用の登録番号をつけます。なお、研究の過程で情報がどの患者さんのもの

かを知る必要がある場合も想定されます。その場合に備えて、情報と患者さん個人を結びつけることのできる対応表を作成させていただきますが、この対応表は研究責任者によって鍵のかかる保管庫で厳重に管理されます。

## 5. 研究への情報提供による利益・不利益

利益・・・今回の研究に情報をご提供いただいた患者さん個人には、特に利益と考えられるようなことはございませんが、研究の成果は、将来のグリオーマの治療法の進歩に有益となる可能性があります。なお、情報を使用させていただいた患者さんへの謝礼等もありません。

不利益・・・カルテ等からの情報収集のみであるため、特にありません。

## 6. この研究終了後の情報の取り扱いについて

今回、集めさせていただく患者さんの情報／検体（腫瘍組織）が医学の発展に伴い、他の病気の診断や治療に新たな重要な情報をもたらす可能性があります。このため、患者さんの情報／検体（腫瘍組織）は、この研究終了後も保存させていただき、他の研究に使用させていただくことがあります。その場合は、新たに研究計画をたてて研究に参加する医療機関の倫理審査委員会での審査を経て、他の研究に使用させていただきます。

情報／検体（腫瘍組織）は、当該研究の終了について報告された日から5年を経過した日又は当該研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日までの期間保存します。保存期間終了後は、患者さん個人を特定できない状態にして適切に廃棄します。

## 7. 研究への情報使用の取り止めについて

患者さん個人の情報／検体（腫瘍組織）を研究に用いられたくない場合には、いつでも取り止めることができます。取り止めに希望された場合でも、担当医や他の職員と気まづくなることはありませんし、何ら不利益を受けることはありませんので、下記【問い合わせ窓口】までお申し出ください。未成年者の方では、保護者の方（父母、成人の兄弟、祖父母、同居の親族などの近親者）からの研究不参加のお申し出やお問い合わせに対しても対応いたします。

取り止めの希望を受けた場合、患者さんの情報を使用することはありません。この場合には、個人を特定できない状態にして、速やかに廃棄させていただきます。

しかし、取り止めに希望した時点で、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

## 8. 当該臨床研究に係る資金源について

本研究は、鳥取大学医学部附属病院脳神経外科の研究費で行っており、特定の企業・団体等からの支援を受けて行われるものではなく、利益相反状態にはありません。

## 9. 研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人が特定される情報は全て削除して公表します。情報の秘密は厳重に守られますので、第三者に患者さんの個人情報明らかになることはありません。

## 10. 知的財産権の帰属について

本研究の結果、特許などの知的財産が生じる可能性もございますが、その権利は鳥取大学に帰属し、あなたには帰属しません。

## 11. 問い合わせ窓口

本研究についてのご質問だけでなく、患者さんの情報／検体（腫瘍組織）が研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、患者さんの情報／検体（腫瘍組織）の使用を望まれない場合など、この研究に関することは、下記の窓口までお問い合わせ下さい。

### 【研究責任者】

神部 敦司 鳥取大学医学部附属病院 脳神経外科 講師  
〒683-8504 鳥取県米子市西町 36-1  
TEL：0859-38-6767／FAX：0859-38-6769

\*この研究に関する情報は、鳥取大学医学部附属病院のホームページに掲載しております。

(URL：<http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/introduction/3107/>)